

## 満六十歳

今日、平成三年四月六日で私は満六十歳になります。

六十歳を迎えた現在、自分自身が平和な生活と健康に恵まれてここにいるということがま  
ずもって有り難いことだと思います。

過ぎ去った私の六十年間をふりかえってみますと、昭和六年四月六日、私はこの池田の地  
で、今日のように五月山の桜の花が咲いている頃、池田教会の後継者として生まれました。  
私が育った時代は満州事変から支那事変さらに大東亜戦争と次々に戦争が進んでいったとき  
でありました。昭和二十年八月六日、広島に原爆が落ちた日の朝、二代教会長である父が四  
十三歳という年令で急死致しましたその時私は十四歳でありました。

終戦後は父なき後を母が病身ながら、教会長として池田教会の布教に携わり私たち兄弟四  
人を育て頑張ってまいりましたが、昭和二十八年二月二十三日、四十九歳で帰幽いたしました。  
私は、急きよ御本部の金光教学院に入学させて頂き半年の修業を終え、その年の秋に帰  
池し池田教会を継ぐことになったのです当時私は二十二歳でした。それ以来今日まで三十八  
年の年月が流れました。

二十五歳で松島教会の和田真之介氏の長女正子（当時二十歳）と結婚し、二十六歳で長女・光代出生、二十八歳で次女・美智子出生、三十歳で三女・信枝（現在岸和田教会）を出生致しました。三人の女の子に恵まれ、とりわけ不自由も不足もなく教会生活に、また子育てに取り組んできました。また教内においても青年教師会や教会連合会の御用に携わりながら年月を重ねてまいりました。

私は四十五歳の夏、教祖様が青年期に昇られたという奈良県吉野山の奥にある大峰山に登山することができ、そこで山岳宗教のこころを取得することができました。それ以来心境の変化をきたし「百歳まで長生きする」との願いをたてるようになったのです。しかしその言葉のかわかぬまに大腸がんの大病を患い、それからは食生活の改善につとめてまいりました。おかげさまで手術もせず、また一日も休む事なく健康で日々を過ごすことができております。また四十七歳の時、開教九十年祭を仕えさせて頂き「開教百年に向かって信心の格立・組織活動の充実・会堂の造営」の願いをたてさせて頂き、それより十年間願い成就に取り組んでまいりました。おかげをもちまして五十七歳の秋、開教百年新会堂造営の御大祭の大みかげを蒙らせて頂きました。

池田教会の歴史から申しますと、開教六十五年目より私の世代になりました。このころ（昭

和二十八年、教祖七十年祭の御年柄）より世の中も落ち着きを取り戻し池田教会にもよい風が吹くようになり、物事がすべてうまく運ばれるようになってまいりました。教会境内地の件では六十六年間、貸地で地代を毎月払っておりましたが、地主のほうから手放すから買って下さいとの申し出があり買収の大みかげを頂くことができました。このようなことから私が自分の過去を振り返ってみますとき初代よりも、二代よりも三代である私が一番おかげを蒙ってきたというまわりあわせになるのであります。世の中には、初代・二代はよかつたけれども三代目にはだめになったという話をよく聞きますが、私のところでは世間並みでなく有り難いことだと思っております。

そして六十歳を迎えました現在の私がこれからさきに向かつて思うことは、四十五歳の時に百歳まで長生きさせて頂いて長く世のお役に立たせて頂きたいとの願いをたて、それに取り組まさせて頂いている関係上、人一倍健康のことに気をつけて日々の生活を送らせて頂いております。そのことが私の信心「寿命長久の神徳」になつていふようなことであります。六十歳の現在の自分自身、次に六十年間の過去を生きた自分自身、さらに未来に對する自分自身ということになるのですが、どれひとつ取り上げましても有り難いことにもんくのつげようがないように思います。

なかでも今日の六十歳よりも百歳に向かって生きていく私自身に一番興味と関心があり、過去の私の生きた足跡よりも今後の私の生きざまこそが、親・先祖より受け継いだこの道の信心を私の世代で私なりにまとめあげていかなければならない大切なことであります。どのようなになりますことやら、どうぞ皆様方に見守られながらお助けを頂き、これからの行く末をたのしみたいと念願致しております。